

# 図書館だより

源氏物語の世界

令和二年九月吉日・第九七号

成田高等学校図書館委員会発行



## 源氏物語を現代語訳で読む

国語科教諭 大川健次

源氏物語は、藤原摂関政治の華やかなりし頃、紫式部によって書かれました。主人公、光源氏の恋愛物語に当時の読者たちはワクワクしながら次の展開を期待していたことでしょう。これは現在、週刊の漫画雑誌や連続ドラマをみて「これからどうなるんだろう」と更なる展開を期待する現代人と同様だったと思われれます。

そんな源氏物語も時代によっては好意的に受け入れられなかったこともあります。たとえば、源氏物語が書かれて二百年近く経ち平安末期にもなると、仏教の影響力が大変強くなり、恋愛は好色である、というような考え方から「紫式部は源氏物語を書いたので地獄に落ちた」「源氏物語を読んだ者も地獄に落ちる」と言われたそうです。これではもう源氏物語は禁断の書です。鎌倉時代になるとまたちよつと違った捉え方をされ、源氏物語は「華やかな人生を送った光源氏は最後に不幸になった」ことを伝えるため、「好色はむなしいことを戒める書」であるとも受け取られています。

時代は下つて、江戸時代に入ると儒教思想の朱子学の考え方から、武士や学者の間で源氏物語は道徳に反するものとして非難されましたが、その反面、庶民たちは、井原西鶴の『好色一代男』の主人公である世之介というキャラクターを好みます。西鶴の『好色一代男』には随所に源

氏物語のパロディととれる箇所があることから、江戸の庶民の間では源氏物語が広く読まれていたことが分かります。江戸時代も後半になると国学者の本居宣長らよつて源氏物語が詳細に研究されます。宣長は「ものあはれ」が源氏物語の本質であると述べています。ここから源氏物語が日本を代表する物語であると認識され始め、単なる「好色者の色恋沙汰」の話ではなく、人間の真実を描き出した純文学として受け取られ、現代に至るわけです。

現在、源氏物語は世界各地でも翻訳されて多くの人々に読まれています。英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語、タミル語などと、なんと三十三の言語に翻訳されているのだそうです。こうして源氏物語は世界最古の長編小説と言われ、まごうことなく世界文学の地位を得ました。

日本における現代語訳について述べますと、明治期に与謝野晶子の『新訳源氏物語』が書かれます。情熱の歌人、与謝野晶子の手によるこの現代語訳は、文豪、森鷗外も絶賛しています。晶子本人は『新訳源氏物語』を不完全なものと考えていました。そうして二十年の歳月を経て晶子は、『新訳源氏物語』を刊行します。こちらのほうが格段に翻訳の質は上がったとされますが、読む人を選ぶ現代語訳だと思えます。対して昭和の戦前、戦後にかけて執筆された谷崎潤一郎の『潤一郎訳源氏物語』は現代語訳としては名著です。もう半世紀以上前のもので

すが、原文に忠実であり、これを読めば原文の源氏物語が読めるようになるよと私も高校時代に国語の先生から言われたのを思い出します。今から二十五年前になりますが、『窯変源氏物語』という現代語訳が出ました。これを書いた橋本治は、「源氏物語の現代語訳は谷崎潤一郎訳が一つあれば充分なので、自分がやる意味のある訳を」と考え、一人称の光源氏に自分の遍歴を語らせています。私としては、大変面白く読めるものでお勧めします。

また、二年前には直木賞作家の角田光代『源氏物語』が発表されました。主語省略の多い原文に主語を補い、現代では煩雑に見える敬語を省略して読みやすくしているのが特徴です。このほかに円地文子、瀬戸内寂聴、田辺聖子の現代語訳があります。

かいつまんで源氏物語の時代ごとの評価と現代語訳について述べてきました。原文でなければ読んだことにならないという考え方もありますが、何事にも手始めというものもあります。気負わず、源氏物語だけでなく古典作品を現代語訳で読んでみることは価値のあることだと思います。皆さんも朝読書などを利用して是非挑戦してみてください。



## 『源氏物語 あさきゆめみし』

(著者)大和和紀・(株)講談社



教室に何人もの女子が溜まっている。なんとなく気まずくなり、逃げ込んだ図書館で書いている。今も昔も異性の気も

ちなんてわからない。が、しかし、自身のフェロモンを惜しげもなく振りまき、瞬く間に恋の世界へ引き込む男、それがこの物語の主人公、かの有名な光源氏だ。今流行りの不倫ではないが(昔は一夫多妻制)何人もの女性を手玉にとつていく描写は優雅でスリリング。ある芸能人が「不倫は文化だ」なんて言っていたが、それすらも納得させてくれる。そのぐらい心が強く騒めき、乱れる。光源氏のように僕にも一瞬で落とせる気がしてきた。こうしちゃられない。さっそく行つてきます。

—その後、彼は二度と姿を現さなかった。—

△委員長▽佐久間宗士(3G)

## 『源氏物語の女性たち』

(著者)瀬戸内寂聴・(株)NHK出版

幼い頃に母親を亡くした光源氏は、亡き母に



瓜二つの義理の母藤壺を慕い、やがて女性として愛するようになりませ。このことをきつかけに、光源氏は藤壺をはじめ多くの女性を愛していきませんが、結局は藤壺への気持ちに晴らす道具として扱っている感じがうかがえます。心の奥ではいつも藤壺ただ一人を愛していたのではないのでしょうか。

△副委員長▽中田瑞樹(3F)

## 『源氏物語と日本人—紫マンダラ』

(著者)河合隼雄・(株)講談社



「源氏物語」を光源氏ではなく紫式部の物語と捉え直している。彼は女性を盛り立てる鏡のような存在なのだ。心理学的観点から物語をとらえ、キリスト教の強い影響を受けた西洋近代自我との対比を試み共通点を探っている。紫式部は近代自我にも通じる自分の物語を見事に作り出したのだ。現代に生きる人間がどのような物語を生きて、作り出すかという点で共通点も多く、読んでいて源氏物語がさらに面白くなるように書かれていた。

△図書館だより班長▽木村亮介(3H)

## 『源氏物語 全現代語訳—手習夢浮橋』

(著者)今泉忠義・(株)講談社



この作品で注目すべきは、誰もが死んだと思っていた主人公・浮舟が実は生きていたというところ。入水自殺を図り、救つても

らつても生きる覚悟がなく、この世に絶望しか感じない様子が哀れだと思えました。彼女に感情移入してみると、男が美貌だけで寄つてくると、この時代の幸せは見初められることしかないということが非常に鬱陶しく感じました。

村瀬聖悟(3A)

## 『源氏物語の色辞典』

(著者)吉岡幸雄・紫紅社



私は源氏物語の「色」について興味を持ちました。様々な色がある中で一色、一貫して登場してくる色があります。それは「紫」です。登場人物にも「紫の上」と呼ばれる人がおり、「紫の物語」とも言われています。成田高校のイメージカラーも紫という印象が強いです。素敵だと思いました。

本木寛大(3A)

## 『源氏物語』

(訳者)瀬戸内寂聴・(株)講談社



源氏物語は、紫式部の著した完成年代不明の作品です。自分がおススメしたいのは第三部の光源氏の死亡した後の話です。源氏物語といえは光源氏のイメージが強いですが、あえて主人公が光源氏でない話を読んでみるのも面白いと思います。中でも自分のおすすするポイントには薫や匂宮達の恋模様へ感情移入させられ、ドキドキを展開とともに楽しめる所です！

大胡桜太(3B)

## 『マンガ日本の古典 源氏物語』

(著者)長谷川法世・(株)中央公論社



私が読んだ源氏物語・第二部では、第一部から一転し、源氏の苦悩の世界が描かれています。時の朱雀院が娘の女三宮を源氏に預けたため、源氏の本妻の立場にあった紫の上が病に伏してしまいます。さらに女三宮は青年貴族の柏木と

恋仲になって子供を産み、そのことを知ってしまった源氏は老いていく自分の過去の過ちへの反省心に苛まれることになるのです。病氣だった最愛の紫の上が死ぬに至り、ついに彼は出家することを決心しました。

高橋駿英(3B)

## 『まろ、ん？大掴源氏物語』

(著者)小泉吉宏・(株)講談社



ストライクゾーンは学生から五十代後半、義理の母も可。日本を代表する元祖ハイスペクイケメン、その名も光源氏。

Googleで「源氏物語 女性」と調べたら関連キーワードに「光源氏 クズ 20代」と出て来る程、恋多き男である。だが、私が思うに彼は只のクズではない。その訳が知りたい人は是非この漫画を読んでみて欲しい。キャラクターは全てデフォルメされており、光源氏の頭はなんと「栗」。イケメンフィルターを通さずに源氏物語を楽しめる稀有な一冊だ。

新谷栄菜(3B)

## 『学びやぶつく・相関図つき源氏物語』

(著者)北川真理・(株)明治書院

この本は気軽に物語やその文化に触れたい人に



適しています。そもそも源氏物語には五百人もの登場人物がいます。個々の性格描写は繊細で、遺伝的要素にまで

意識して書かれているため構成が複雑で難解です。しかし、現代にも通じる人間心理が描かれ、高い評価を受けています。原文を読むことこそ醍醐味かもしれませんが、最初のステップとして、まずはこの本を読んでみては？

鈴木ほの香(3E)

## 『謹訳 源氏物語』

(著者)林望・(株)祥伝社



源氏物語は有名な古典文学ですが、いざ読もうと思っても「古典だから」とか「文章が長くて読みにくいから」など断念してしまう人が多いのではないのでしょうか？私もその一人でした。でも、この本は現代人にも受け入れやすく、かつ、気品のある文章で、古文が苦手な人でも大丈夫。豊かな情景描写は、より頭の中で再現しやすいように、簡単明瞭に書かれています。イケメンな光源氏の行動や感情、相手の女性たちとの関係を楽しみながら読むことが出来ます。

竹尾陽香(3E)

## 『夕顔の恋―最高の女のひみつ』

(著者)林望・(株)朝日出版社

源氏物語と言えは恋。そこで、源氏が恋に落ちた女性の中で私が最もフェミニンだと思う人を紹介しよう。その名を夕顔、当時の源氏より二歳年上であった。因みに夕顔とは花の名前で、白い朝顔のような見た目をしている。なぜ彼女を選んだのか。艶やかな魅力を植え付けられたのは初登場の場面。そこには白以外の印象的な色がいくつかが登場する。それがうまい具合に白を覆い、月を隠す雲のように夕顔を覆う。その不透明さが夕顔に儚くも艶麗な匂いを与えている。



源氏や私は彼女の見えない部分を見ようとしている間に彼女に取り憑かれてしまうのかもしれない。

小林唯人(3E)

## 『新編日本古典文学大系 源氏物語』

(著者)阿部秋生 他・(株)小学館

古典文学から現代文学までで、最も多く読まれ、最も愛されてきたテーマは、おそらく男女の恋愛であろう。「源氏物語」に描かれる平安時代と現代とを比べてみても、ほとんど違いは無いように思える。では、どこに違いがあるのだ



だろうか。それはおそらく恋愛における「スピード感」であろう。平安時代は、愛する人と連絡を取るためには、使者を送るなり手紙を送るなりしなければならなかった。ところが現代はインターネットで一瞬でやりとりできる。一見便利になったように思えるかもしれない。しかし、私たちはその分、相手を想う時間を失ったとも言えるのではないだろうか。

高橋知希(3E)

## 『源氏物語 紫の結び』

(著者)萩原規子・(株)理論社



作者の意思を反映し、原典である源氏物語の細部がもつ魅力と、テンポの良さを重視してつくられている。

でも読みやすくスラスラ読めるので、古典が苦手という方にこそ、必要な教養としてではなく、楽しい読み物として読んでほしい。

加瀬そら(3E)



## 『源氏物語 つる花の結び』

(著者)萩原規子・(株)理論社



普通の恋愛小説かと思つたら全然違つていて、話に引き込まれました。光源氏に勝手に女性が寄つてきているかと思つたら、自分から女性にアピールしていて、そんなに何人も好きになるのかと思議に思いました。古典の授業でやったりすると思いますが、それだけではなく全部読んでみて欲しいです。

渡邊桜子(3H)

## 『ウエイリー版源氏物語I』

紫式部 アーサー・ウエイリー 英語訳

(訳者)佐復秀樹・(株)平凡社



この本は少し特殊で、英訳したものを更に日本語訳するという逆輸入のような訳され方をしています。もともと日本のこととがわからない外国人向けに書かれたものなので丁寧な説明がされており、とても読みやすい一冊となっています。また、最後に歌の一覧が載っているのどんな歌が詠まれたのか気になる方もぜひ手にとってみてください。

坪井真帆(3G)

『ウエイリー版源氏物語3』  
紫式部 アーサー・ウエイリー英語訳

(訳者)佐復秀樹・榎平凡社



源氏の息子である夕霧は思慮分別があり世間からの評価も良かったが、結局は父親よりも女性への思いが無く、本妻の雲居雁とは別居し、落葉の宮には振り向いてもえなかつた。自分のことばかり考えて、相手の考えを汲み取れない人は皆が不幸なる選択しかできないのだと思った。

伊藤花鈴(3D)

『紫式部 源氏物語』

アーサー・ウエイリー英語訳

(訳者)穂谷まりえ・十森山恵・榎左右社

—あなたでしたの王子さま、ずいぶんお待ちしましたわ—



ヴィクトリアン源氏と言われているクリムト表紙のウエイリー版源氏物語の再日本語訳。ウエイリーという王子に目覚めさせられた眠りの森の美女。それがこの源氏物語なのだ。行ったことも見たこともない、しかも古典を西洋人が読むとした

たらこんな気分なのは？さらにそれを現代日本人が味わうという多重構造のカラクリ。中国の象牙彫刻「天球」を覗くよう。本作で源氏は全く違う趣を見せる。

歌は藤井貞和の未発表のテキストにより、いっそう解釈が深まった。区切りや句読点が補われ隠されていた掛詞、付与されていた意味が炙りだされている。戦争も無く平安な時代だからこそ、些細な事象に心を寄せ、美を見出し愛するピンと張ったつまらない平坦なシーツではなく自ら抓まんでシワを寄せたシルクのドレープを愉しむように。杓子定規な正義をふりかすのではなく、ここは顕微鏡の世界と見ることにしよう。



写真・「天球」

象牙と石の彫刻美術館・ジュエルピア

▼参考文献

- ・瀬戸内寂聴『少年少女古典文学館・源氏物語』(株)講談社
- ・大和和紀原作・絵、時海結衣文『あさきゆめみし』(株)講談社
- ・源氏物語研究会『キャラクターを知らば源氏』(株)KADOKAWA

▼令和元年(二〇一九)度年間貸出冊数

中学生利用冊数	4,814冊
高校生利用冊数	4,647冊
小学生及び職員利用冊数	467冊
合計	9,928冊

▼図書委員・役員お疲れ様でした

図書委員役員は左記の通りです。前半はコロナウィルスの影響により、思うように活動が出来ずとても残念でした。後半も文化祭などの行事が中止となり日直の業務のみとなります。尚、9月中に役員改選を行い、後期役員が決定する予定です。

図書委員長：高3G 佐久間宗士

副委員長：高3F 中田瑞樹

副委員長：高2A 樽井陸

副委員長：高2G 高橋一郎

班長：高3G 坪井真帆

班長：高3F 竹尾陽香

班長：高3H 木村亮介

▼学校図書館の発行物

- ①『Bibliotheki』  
新着図書の中から、お薦めの図書を紹介  
毎週発行  
(図書館内掲示及び学校E)掲載
- ②『図書館だより』  
テーマに沿って図書委員が取材  
学校E)にバックナンバー掲載  
毎年9月頃発行(全校に配布)
- ③『READMASTER』  
教職員がおススメの本の紹介ポスター掲示  
及び学校E)に内容紹介